

第4章 地域らしい緑のまちづくり

ここでは、緑の特徴により、市域を3つの地域に区分し、地域ごとに「地域の緑の拠点」、「地域の緑の軸」、「地域の身近な緑」を位置付けるとともに、協働による緑のまちづくりの取り組みについて示します。

〔地域区分の考え方〕

本市の土地利用についてみると、概ね山手幹線以北の阪急神戸線沿線は、住居系の割合が高く、また農地も残るなど、比較的落ち着いた住宅地としての性格を有しています。

一方、概ね国道43号より以南の臨海部は、明治の後半から重化学工業を中心とした工場立地が進み、現在も、大半が工業系で占められる、工業地としての性格を有しています。

この間に挟まれる JR 神戸線及び阪神本線沿線は、住居系、商業系、業務系、工業系が混在する市街地としての性格を有しています。

こうした土地利用の状況や市街地の形成過程に応じて、全市を概ね以下の3つの地域に区分し、それぞれの地域特性に応じた緑のまちづくりを進めていきます。

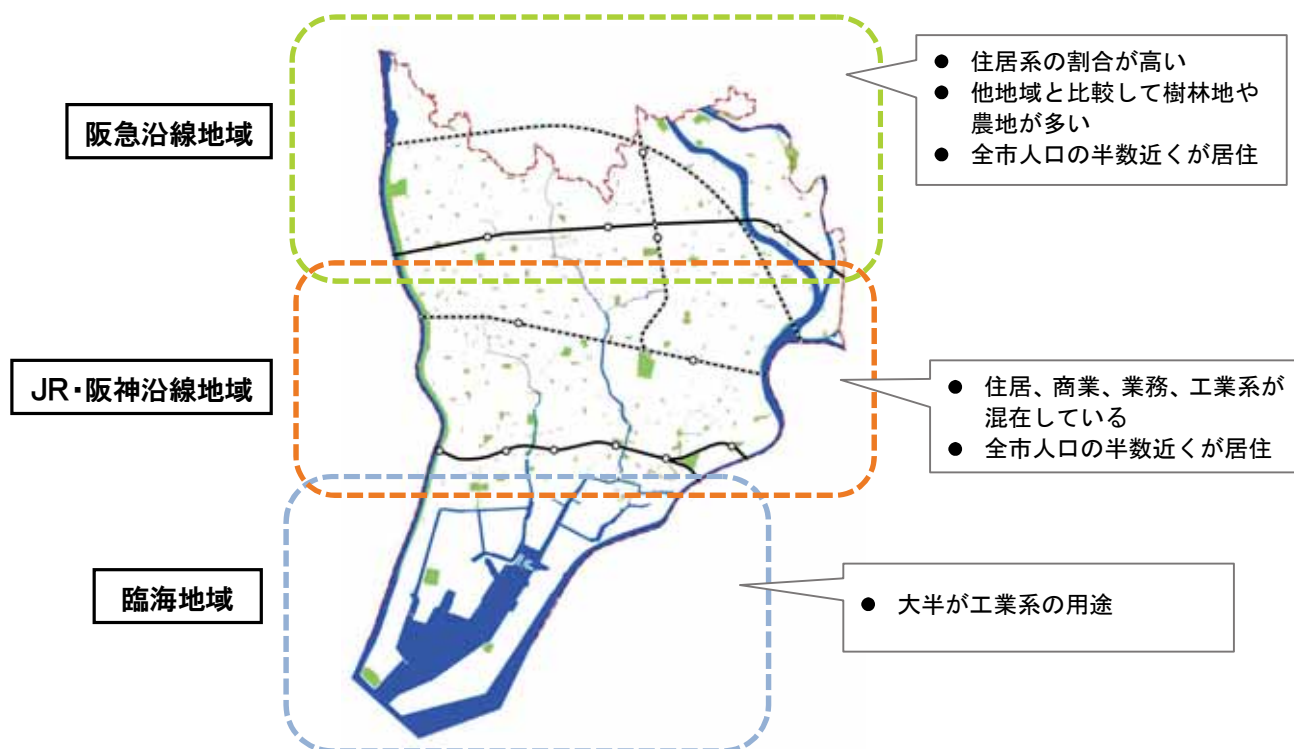


図 4-1 地域の区分と概況

(備考) この区分は、土地利用や市街地のまとまり、地域性などに応じて緑のまちづくりを進めていくための区分であり、行政区や小学校区などを基本とした地域住民主体のコミュニティ活動を分断、制約するものではありません。

第4章 地域らしい緑のまちづくり

表 4-1 地域の緑の特徴

地域の緑の特徴		阪急沿線地域	JR・阪神沿線地域	臨海地域	全市域
緑の現況調査 (%)	緑の割合 (①～⑨)	25.8	18.2	28.0	23.0
	緑被率 (③～⑨)	16.2	9.9	9.5	12.3
	樹木緑被率 (⑤～⑧)	9.8	8.2	6.1	8.4
	①水面	5.6	4.2	7.4	5.4
	②裸地	4.0	4.1	11.1	5.3
	③草地	3.8	1.2	3.3	2.6
	④農地の緑	2.6	0.4	0.0	1.2
	⑤低層住宅の緑	2.3	1.1	0.02	1.4
	⑥中高層住宅の緑	0.7	0.6	0.01	0.5
	⑦企業地などの緑	2.2	1.8	3.4	2.3
	⑧公有地の緑	4.6	4.6	2.7	4.2
⑨屋上の緑	0.03	0.06	0.03	0.04	
都市公園面積		約 51.7ha (2.3 m ² /人)	約 106.3ha (4.7 m ² /人)	約 33.4ha —	191.7ha (4.3 m ² /人)

(備考) 1. 平成 24 年(2012 年)8 月実施の現況調査による

2. 表中の数値は四捨五入を行って表示しているため、合計が合わないところがある

表 4-2 地域の声 (アンケート結果)

アンケート結果		阪急沿線地域	JR・阪神沿線地域	臨海地域	全地域平均
市民アンケート (%)	緑の量が多い傾向にあると答えた人の割合	24.3	15.5	—	20.2
	ここ 10 年で緑が増加傾向にあると答えた人の割合	8.0	12.0	—	10.1
	ここ 10 年で緑が減少傾向にあると答えた人の割合	15.8	12.5	—	14.1
	緑について満足であると答えた人の割合	18.4	16.1	—	17.2

(備考) 平成 24 年(2012 年)12 月～平成 25 年(2013 年)1 月実施のアンケート調査による

1 阪急沿線地域

(1) 概況

① 地域の概況

- ・概ね山手幹線以北にあたる本地域は、昭和初期から宅地開発が進み、住居系の土地利用の割合が高くなっています。市人口の半数近くが居住し、大阪、神戸への通勤者のベッドタウンとしての性格を有しています。
- ・阪急塚口駅やJR 塚口駅周辺は、古くから尼崎と伊丹、宝塚の北部地域を結ぶ交通の要衝であり、阪急塚口駅周辺は現在も商業施設の立地する集客の場となっているほか、JR 宝塚線沿線や尼崎池田線沿いには内陸部工業地が形成されています。

② 緑の特徴

- ・本地域の緑の割合は25.8%と全市域の割合(23.0%)を大きく上回っています。この要因として、農地や低層住宅地^{*34}における緑が多いことが挙げられます(P88表4-1)。
- ・本地域の都市公園面積は約51.7ha、地域住民一人当たりの公園面積は2.3㎡/人と、全市域の平均(4.3㎡/人)を大きく下回っています(P88表4-1)。
- ・河畔林であった猪名川自然林やエノキ・ムクノキ群落の残る佐璞丘などの貴重で豊かな自然環境が残されています。
- ・市内に残る農地の大半が本地域にあり、一部に住宅地と一体的な田園風景が残るなど、農地が住環境や景観に潤いを与えています。
- ・昭和初期に開発された武庫之荘や塚口町、東園田町などの低層住宅地は、生け垣や庭木などの緑が多い良好な住環境を有する住宅地となっています。
- ・武庫之荘駅周辺や園田駅周辺等には、農業用水路網が残されており、潤いのある地域環境を創出しています。
- ・武庫川周辺(西武庫公園・宮の北公園周辺)や農業公園周辺では、ホタルが生息するなど貴重な自然環境が残されています。
- ・都市緑化植物園に位置付けられる上坂部西公園には緑の相談所があり、緑化普及啓発の拠点として、緑化相談の他、年間を通じて花や緑に関する講習会や展示会、イベントなどが行われています。
- ・西武庫公園には貸し花壇(分区園)が設置され、市民による花づくりが行われています。

③ 地域の声 (P88表4-2)

- ・市民アンケートでは、居住地域の緑の量に関して「多い」または「やや多い」と回答した人の割合は24.3%で、全地域の平均(20.2%)を上回っていますが、ここ10年で緑が「減った」あるいは「やや減った」と回答した人の割合は15.8%で、全地域の平均(14.1%)を上回っています。
- ・地域の緑に対して「満足」あるいは「やや満足」と回答した人の割合は18.4%と、全地域の平均(17.2%)を上回っています。

④ 市民・事業者の主な取り組み

- ・猪名川や藻川周辺では、「自然と文化の森構想」（平成13年（2001年）策定）をもとに、市民協働による環境保全活動に取り組んでいます。（P85 事例①）
- ・佐璞丘を万葉の森として、明るく、憩える森にするため、地元住民等による「万葉の森・佐璞丘再生プロジェクト」が発足し、佐璞丘の植生調査やクリーン作戦、シュロの駆除作業などの保全活動に取り組んでいます。（P82 事例②）
- ・武庫之荘や東園田町などの低層住宅地をはじめとする住宅地では、良好な住環境の形成のため、地区計画や建築協定^{*9}などの住民自身によるまちづくりが展開されています。（P90 事例①）
- ・六樋^{*57}を水源とする農業用水路では、市民による水路の保全活用の取り組みが進められています。（P90 事例②）
- ・西武庫公園では、公園利用団体が連携して、公園利用のルールを作成したり、来園者をもてなすイベントの開催やホタルの保全育成などの公園の活性化に取り組んでいます。（P90 事例③）
- ・常松から西昆陽にかけての武庫川河川敷では、市民グループによるコスモス園づくりが進められています。（P91 事例④）
- ・富松城跡や近松の里周辺では、市民グループにより、地域の歴史や文化を守り、緑を環境学習の場などに活用する取り組みが進められています。（P91 事例⑤、⑥）

地域の特性を活かした取り組み事例

■事例① 武庫之荘5丁目東地区まちづくり協議会

- ・武庫之荘5丁目地区地区計画において、敷地の緑化率を定め、低層戸建住宅を主体とする緑豊かで閑静な住宅街である地区内の環境の保全と形成を図っています。



生け垣による緑豊かなまちなみ
（武庫之荘5丁目）

■事例② 清流にこころふれあう道づくり

- ・武庫小・中学校・幼稚園の間にある道路をむこっ子ロードと称し、地域の豊かな水路網を活かした「ふれあいの自然環境づくり」に向けて、学校園間の道路、水路の空間に花を育てたり川を美しくし、地域住民の語らいの居場所作りをしています。



生き物と触れ合う児童
（武庫元町）

■事例③ 西武庫公園ホタルの会

- ・西武庫公園周辺の農業用水路に生息するホタルを絶やさないう、自然環境を保持し次世代へ引き継ぐことを目的に、水路の清掃、水質検査、植物調査、ホタル観賞会等、ホタルを守り育てる活動をしています。



水路清掃の様子（武庫豊町）

■事例④ 武庫川コスモス園

・阪神・淡路大震災以降、不法耕作やごみの不法投棄などが続き、見苦しい状態にあった髭の渡し付近の武庫川河川敷において、地元住民が中心となる市民グループ「髭の渡し花咲き会」をはじめ多くのボランティアにより花づくりを行っています。平成15年(2003年)に取り組みをはじめ以降、現在では、7区画のコスモス畑が広がり、阪神間の秋の花の名所としてすっかり定着しています。この髭の渡し花咲き会の活動が高く評価され、平成22年(2010年)5月には第21回「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。



上：取り組み前の荒れた様子
下：住民による種まきの様子
(武庫川河川敷)

■事例⑤ 富松城跡を活かすまちづくり委員会

・中世城郭の貴重な遺構である富松城跡周辺において、市民・研究者等からなる「富松城跡を活かすまちづくり委員会」が、緑などの維持管理を行う中で、地域史や環境学習の活動などを行っています。



富松城跡 (富松町)

■事例⑥ 近松かたりべ会

・尼崎ゆかりの江戸時代の劇作家、近松門左衛門を一人でも多くの方々に知ってもらい、楽しんでもらおうと、市民グループが近松作品の講読会(月1回定例会)、近松ゆかりの地訪問、市主催「近松ナウ事業」での近松に関する展示会の実施、近松の里(近松公園、近松の墓、近松記念館、広済寺など)のボランティアガイドを行っています。



ボランティアガイドの様子
(近松公園周辺)



武庫川コスモス園

(2) 緑のまちづくりの考え方

目指すまちの緑のイメージ『豊かな自然環境を育み、暮らしにうるおいを与える緑』

本地域は、良好な住宅地である一方、猪名川自然林や西武庫公園などの広がりのある緑や農地、社寺林などの緑が市街地内に残された、良質な住環境を有する地域です。

これらの緑と都市としての利便性のバランスのとれた住環境は、本市の大きな財産として、今後とも守り育てていくとともに、都市イメージの向上のために積極的に活用するなど、まちづくりに活かすことが重要です。

そこで、猪名川自然林や西武庫公園などの拠点となる緑と、農地や低層住宅地などの市街地の緑を積極的に守り育み、住環境としての魅力を高め、豊かな自然環境を育み、暮らしに潤いを与える緑を目指します。

① 緑のネットワーク

ア 地域の緑の拠点

環境保全の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 猪名川自然林・佐璞丘一帯 ・ 西武庫公園、宮の北公園周辺、農業公園周辺（ホテルの生息地） ・ まとまりのある農地（田能・食満の生産緑地など） ・ まとまりのある社寺林（保護樹林） ・ 大規模な都市公園（地区公園以上の規模を有するもの）
景観形成の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅周辺（阪急塚口駅、阪急武庫之荘駅周辺など） ・ 優れた自然景観が残る地域（猪名川自然林、田能・食満の農地、武庫川など） ・ 歴史的な景観が残る地域（猪名寺廃寺、近松公園周辺、富松城址など） ・ 市民活動による花づくりが行われている場所（武庫川コスモス園、チューリップ花壇など）
文化・レクリエーションの拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化普及啓発の場となる緑（上坂部西公園、大井戸公園、近松公園、西武庫公園） ・ 運動等レクリエーションの場となる緑（北雁替公園、猪名川公園、武庫川河川敷緑地など） ・ 文化（史跡）と一体となった緑（猪名川自然林・佐璞丘一帯、近松公園周辺、富松城跡）
防災の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災拠点（上坂部西公園、高田公園） ・ 避難地となる緑（大火災避難場所、学校）

イ 地域の緑の軸

水辺の軸
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川（武庫川、猪名川、藻川、庄下川など） ・ 水路（六樋など）
沿線の軸
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路など（尼崎池田線、山手幹線、園田西武庫線、大庄武庫線、園田橋線など） ・ 鉄道（阪急神戸線、JR宝塚線など）

ウ 地域の身近な緑

- ・ 武庫之荘や塚口町、東園田町などの低層住宅地の庭木・生け垣、農地、若王寺池
- ・ 学校園、病院等の施設の緑
- ・ 身近な都市公園
 - ・・・など



大井戸公園のバラ園



春日神社（田能）

②緑のまちづくりの取り組み

関わる

基本方針1 多様な主体が関わり、みんなで緑のまちづくりを進めましょう

- 緑化普及啓発の拠点である上坂部西公園、大井戸公園、近松公園、西武庫公園では、実践型の普及啓発・人材育成に取り組み、緑に関わる人を増やすとともに、その他の身近な場所へ緑のまちづくりの取り組みを広げます。
- 上坂部西公園緑の相談所では、園芸・緑化相談や講習会、展示会など、市民の緑化意識の高揚を図る様々な取り組みを進めます。

活かす

基本方針2 暮らしや様々な活動、まちづくりに緑を活かしましょう

- 西武庫公園ネットワークをさらに活性化し、公園内の活動に留まらず、子育てや福祉活動などの活動団体と連携し、地域のまちづくりへと、その取り組みを広げます。(P80 重点的な取り組み2)
- 武庫川のコスモス園では、緑を活かした地域の魅力づくりに取り組むとともに、その魅力を市内外に発信します。
- 猪名川自然林や佐璞丘一帯の貴重な樹林が残るところや周辺の緑を、環境教育・学習の場として活用します。
- 六樋などの水路と一体となったまちなみの景観づくりなど、地域の資源を緑のまちづくりに活用します。
- 富松城跡や近松公園周辺などに残る歴史ある緑を今後も保全するとともに、地域コミュニティの場などのまちづくりの資源として活用します。

守り
育てる

基本方針3 まちの緑を守り育て、次世代へ引き継ぎましょう

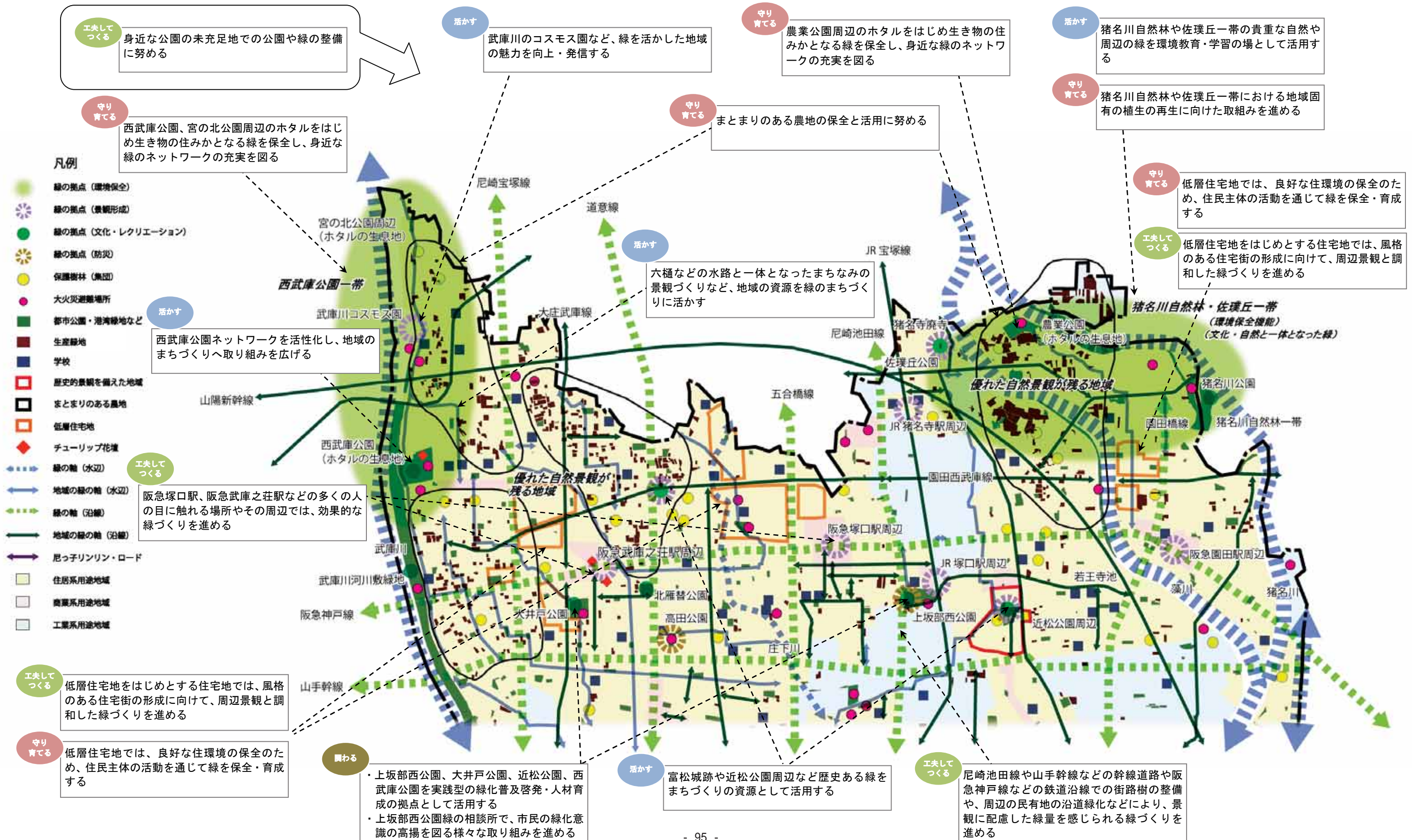
- 武庫川周辺（西武庫公園、宮の北公園周辺）や農業公園周辺のホタルをはじめ、様々な生物の住みかとなる河川、水路等やその周辺の緑を良好に保全するとともに、優れた自然景観の保全や動植物の分布域の拡大のため、身近な緑のネットワークの充実を図ります。
- 猪名川自然林や佐璞丘一帯の貴重な樹林が残るところでは、生物多様性を脅かすおそれのある外来種の除去など、地域固有の植生の再生に向けた取り組みを進めます。(P83 重点的な取り組み3)
- 緑が豊かな低層住宅地では、良好な住環境の保全のため、住民主体の活動を通じて緑を保全・育成します。
- 都市環境や防災性の向上、優れた自然景観や生物多様性の保全等のため、生産緑地地区の追加や市民農園制度などの活用により、まとまりのある農地の保全と活用に努めます。

工夫して
つくる

基本方針4 工夫して新たな緑づくりを進めましょう

- 阪急塚口駅、阪急武庫之荘駅などの多くの人の目に触れる場所やその周辺では、効果的な緑づくりを進めます。
- 緑の軸となる尼崎池田線や山手幹線などの幹線道路や阪急神戸線などの鉄道沿線では、街路樹の整備をはじめ、周辺の民有地の沿道緑化や壁面緑化などにより景観に配慮した緑量を感じられる緑づくりを進めます。
- 低層住宅地をはじめとする住宅地では、風格のある住宅街の形成に向けて、水路や農地、道路などの周辺景観と調和した緑づくりを進めます。
- 身近な公園が不足している地域では、公園をはじめとする緑の整備に努めます。

阪急沿線地域
 目指すまちの緑のイメージ 『豊かな自然環境を育み、暮らしにうるおいを与える緑』



2 JR・阪神沿線地域

(1) 概況

①地域の概況

- ・概ね山手幹線から国道43号に囲まれた本地域は、江戸時代の城下町であった地域を含む、早くから市街化が進んだ地域で、JR神戸線、阪神本線の各駅を中心に市街地が形成され、市人口の約半数が居住しています。
- ・各駅の周囲には商業業務地が広がり、賑わいの場となる一方、JR尼崎駅周辺をはじめ本地域の東側にはまとまった工業地が形成されています。
- ・大庄北などの一部の地域で農地も見られますが、全体的に市街化が進んでいます。

②緑の特徴

- ・本地域の緑の割合は18.2%と、全市域の割合(23.0%)を大きく下回っています。この要因として、水面や草地、農地、低層住宅地の緑が少ないことがあげられます(P88表4-1)。
- ・本地域の都市公園面積は約106.3ha、地域住民一人当たりの公園面積は4.7㎡/人と、全市域の平均(4.3㎡/人)を上回っています(P88表4-1)。
- ・比較的大きな公園として、地域防災拠点にも指定される橋公園、記念公園のほか、未供用区域の残る小田南公園があります。
- ・浄化対策により蘇った庄下川では、河川敷を利用した遊歩道が整備されるなど、市民が身近に憩える場となっています。
- ・阪神尼崎駅前の中央公園は、立体公園として整備されており、緑豊かなまちの玄関口となっています。
- ・JR尼崎駅周辺では、土地区画整理事業や市街地再開発事業、地区計画などにより、JR尼崎駅北広場や潮江緑遊公園、緑遊広場などが整備され、建築物の壁面・屋上緑化が進んでいます。

③地域の声 (P88表4-2)

- ・市民アンケートでは、居住地域の緑の量に関して「多い」または「やや多い」と回答した人の割合は15.5%で、全地域の平均(20.2%)を下回っていますが、ここ10年で緑が「増えた」あるいは「やや増えた」と回答した人の割合は12.0%で、全地域の平均(10.1%)を上回っています。
- ・地域の緑に対して「満足」あるいは「やや満足」と回答した人の割合は16.1%と、全地域の平均(17.2%)を下回っています。

④市民・事業者の主な取り組み

- ・中央公園では、花と緑やまちのみどころなどの情報発信を行うとともに、市民との協働により、チューリップの花壇づくりや菊花展などの様々なイベントが行われています。(P99事例①)
- ・大庄西中学校跡地を暫定的に活用している「大庄おもしろ広場」では、地域活動支援事業の一環として市民主体の様々な活動が行われています。(P99事例②)
- ・庄下川では、ラブリバー庄下川作戦として、市民との協働によりイベントも兼ねた清掃活動が行われています。(P99事例③)

第4章 地域らしい緑のまちづくり／2 JR・阪神沿線地域

- ・宮内公園では、元々あった和風の民家を茶室として残し、地元住民が様々な活用しているほか、梅の咲く時期には市内の高校生が毎年茶会を開催しています。(P99 事例④)
- ・阪神尼崎駅南西に残る寺町では、市民グループがボランティアで案内を行うなど、歴史や文化を守り活用する取り組みが進められています。(P99 事例⑤)



中央公園のチューリップ



歩行者デッキと一体となった緑遊広場

地域の特性を活かした取り組み事例

■事例① 中央公園のチューリップ花壇

- ・平成11年度(1999年)から始まった「花のまちあまがさきチューリップ運動」により、市民・事業者と行政の協働で、花壇づくりに取り組んでいます。平成25年(2013年)の春には2万1千本のチューリップが多くの市民や来訪者の目を楽しませました。また、開花期に花壇を開放するとともに、幼稚園児の写生大会を開催し、描かれた絵を中央公園パークセンター内に展示するなど、より一層チューリップに親しんでいただけるような取り組みを行っています。



園児による球根の植え付け
(中央公園)

■事例② 大庄おもしろ広場

- ・中学校跡地を暫定的に活用し、住民自らによる草花・野菜栽培体験事業、ものづくり体験事業、スポーツ施設整備・運営などの活動などを通じて地域の結びつきを強化しています。平成23年度(2011年度)に兵庫県の「地域づくり活動支援市町モデル事業」に採択されました。



広場の人気者「子ヤギ大使」
(大島)

■事例③ ラブリバー庄下川作戦

- ・庄下川を「ふるさとの川」として守り、未来に受け継いでいくため、周辺企業や地域団体が中心となった「庄下川ラブリバー委員会」が実施している事業で、市の中心部を流れる庄下川を清掃することで、河川愛護精神の高揚を図り、また、水と親しみ、ふれあうことができる川のあるまちづくりを推進しています。



河川清掃の様子(庄下川)

■事例④ 尼崎観梅茶会

- ・宮内公園の梅林において、梅の花薫る頃、市内の高校の茶道部員らが行っている茶会です。公園にある茶室を使い、10数年前から毎年、高校生が企画し、市民らに茶を振る舞っています。
- ・参加者は、白梅や紅梅、枝垂れ梅を見ながら野点を楽しみます。



高校生による野点(宮内公園)

■事例⑤ 尼崎ボランティア・ガイドの会

- ・江戸時代、尼崎城の築城に伴って、尼崎のまちに散在していた寺院を城の西側に集めてできた寺町界隈のボランティア・ガイドを行っています。
- ・市街地の中心部に今日までまともに残っている寺町は全国的にめずらしく、昔の城下町の風情を今に伝えています。



ボランティア・ガイドの様子
(寺町)

(2) 緑のまちづくりの考え方

目指すまちの緑のイメージ『歴史とにぎわいと下町の風情を感じる緑』

本地域は、JR 神戸線、阪神本線が地域を横断しており利便性の高い地域ですが、住宅系、商業系、業務系、工業系の土地利用が混在し、緑被率が全市域の割合を下回るなど、住環境の向上が課題となっています。

一方で、近年、阪神尼崎駅や JR 尼崎駅周辺などで、さらなる都市機能の集積が進められてきましたが、古くから市街化が進んできた本地域では、これ以上新たに緑を増やす用地を確保することは困難な状況にあります。

そこで、より効果的に都市の魅力の向上を図るため、駅前や幹線道路などでの人の目をひきつける緑づくりにより賑わいを創出するとともに、民間住宅や商店の軒先やすき間での緑づくりを進め、小さな緑でまちをつなぎ、歴史と賑わいと下町の風情を感じる緑を目指します。

①緑のネットワーク

ア 地域の緑の拠点

環境保全の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある社寺林（保護樹林） ・まとまりのある農地（大庄北の生産緑地など） ・大規模な都市公園（地区公園以上の規模を有するもの）
景観形成の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅周辺（JR 尼崎駅、JR 立花駅、阪神尼崎駅など） ・優れた自然景観が残る地域（大庄北の農地、武庫川など） ・歴史的な景観を備えた地域（寺町・城内地域） ・市民活動による花づくりが行われている場所（チューリップ花壇など）
文化・レクリエーションの拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・緑化普及啓発の場となる緑（中央公園、宮内公園） ・運動の場となる緑（記念公園、芦原公園、小田南公園、橘公園、武庫川河川敷緑地など） ・文化と一体となった緑（寺町・城内地域、総合文化センター周辺） ・その他レクリエーションの場となる緑
防災の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災拠点（橘公園、記念公園、小田南公園） ・避難地となる緑（大火災避難場所、学校）

イ 地域の緑の軸

水辺の軸
・ 河川（武庫川、神崎川、左門殿川、庄下川、蓬川など） ・ 水路
沿線の軸
・ 幹線道路など（国道2号、国道43号、尼崎池田線、五合橋線など） ・ 鉄道（JR神戸線、阪神本線など）

ウ 地域の身近な緑

- ・ 住宅地の庭木、マンション敷地や工場・商業施設などの緑、農地
- ・ 学校園、病院等の施設の緑
- ・ 身近な都市公園
　　・・・など



尼崎城址公園



蓬川緑地

②緑のまちづくりの取り組み

関わる

基本方針1 多様な主体が関わり、みんなで緑のまちづくりを進めましょう

- 緑化普及啓発の拠点である中央公園、宮内公園では、実践型の普及啓発・人材育成に取り組み、緑に関わる人を増やすとともに、その他の身近な場所へ緑のまちづくりの取り組みを広げます。

活かす

基本方針2 暮らしや様々な活動、まちづくりに緑を活かしましょう

- まちの玄関口である JR 尼崎駅北広場や阪神尼崎駅前の中央公園などでは、青空市場などのまちの賑わいにつながる活動の場として活用します。(P80 重点的な取り組み2)
- 中央公園では、引き続き花と緑の情報発信を行うとともに、まちの賑わいや魅力などを発信する場として活用します。
- 歴史的な景観を備えた寺町・城内地域では、伝統的な建築物と緑との調和を図りながら歴史的な景観を形成するとともに、歴史資源を活かしたまちづくりに取り組みます。
- 記念公園は、市民の健康増進を図るレクリエーションの拠点として活用します。

守り
育てる

基本方針3 まちの緑を守り育て、次世代へ引き継ぎましょう

- 庄下川や蓬川沿い、常光寺川緑地などの連続性のある緑を、市街地の重要な緑空間として保全し、身近な緑のネットワークの充実を図ります。
- 地域の防災拠点である小田南公園は、必要な防災機能の強化に努めます。
- 尼崎城址公園は歴史的景観を有する地域にあり、また大火災避難場所として位置付けられているため、早期整備に努めます。
- 都市環境や防災性の向上、優れた自然景観や生物多様性の保全等のため、生産緑地地区の追加や市民農園制度などの活用により、まとまりのある農地の保全と活用に努めます。

工夫して
つくる

基本方針4 工夫して新たな緑づくりを進めましょう

- JR 尼崎駅、JR 立花駅、阪神尼崎駅などの多くの人の目に触れる場所やその周辺では、効果的な緑づくりを進めます。
- 緑の軸となる尼崎池田線や国道2号などの幹線道路や阪神本線などの鉄道沿線では、街路樹の整備をはじめ、周辺の民有地の沿道緑化や壁面緑化などにより景観に配慮した緑量を感じられる緑づくりを進めます。
- 個々の住宅や事業所、工場等でのすき間緑化や軒先緑化などによる身近な緑づくりを進めます。
- 身近な公園が不足している地域では、公園をはじめとする緑の整備に努めます。

JR・阪神沿線地域 目指すまちの緑のイメージ 『歴史とにぎわいと下町の風情を感じる緑』

工夫してつくる 個々の住宅や事業所、工場等でのすき間緑化や軒先緑化による身近な緑づくりを進める

工夫してつくる 身近な公園の未充足地での公園や緑の整備に努める

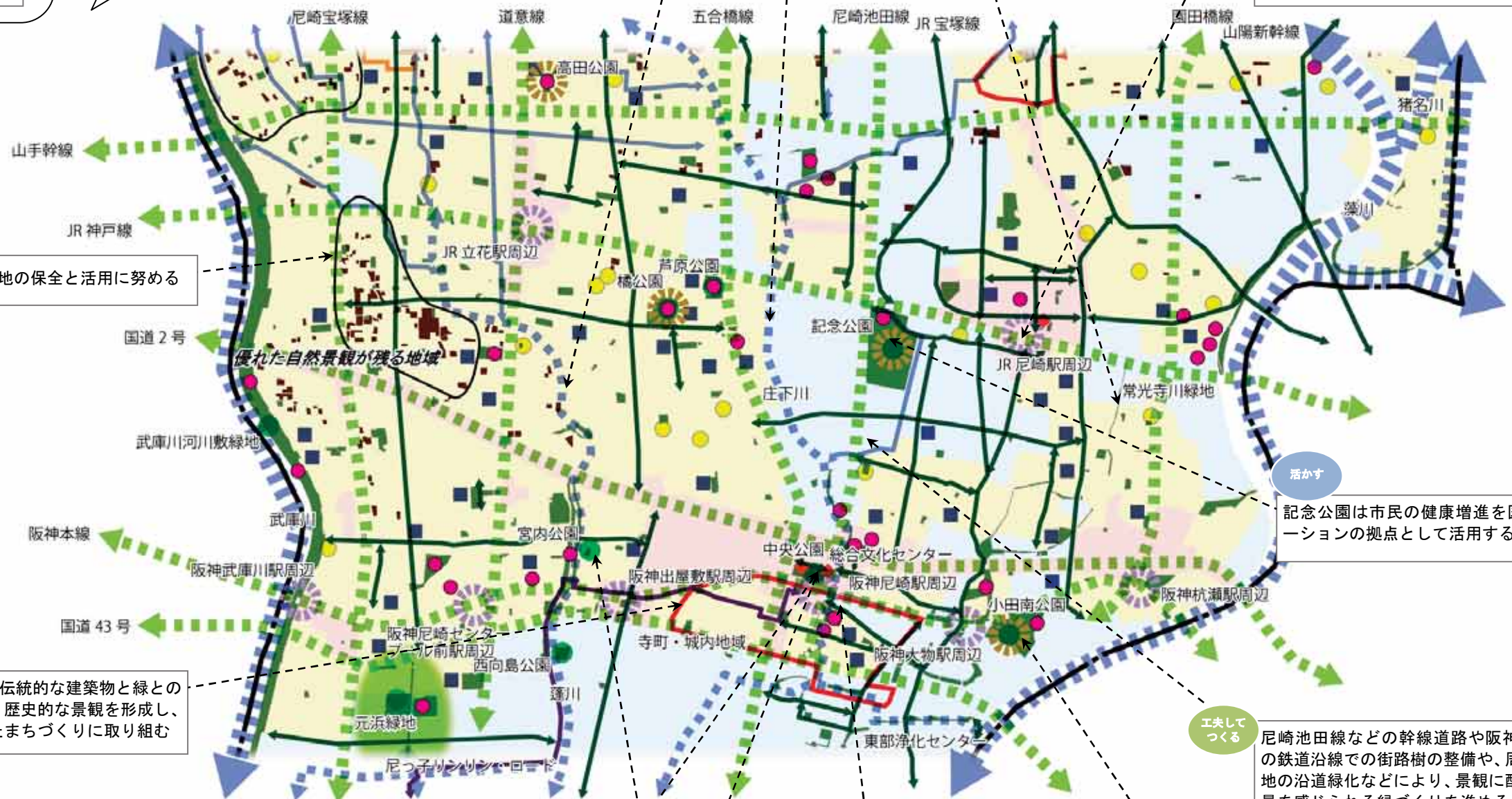
活かす JR 尼崎駅北広場や中央公園などのまちの玄関口では、まちの賑わいにつながる活動の場として活用する

工夫してつくる JR 尼崎駅、JR 立花駅、阪神尼崎駅などの多くの人の目にふれる場所やその周辺では、効果的な緑づくりを進める

- 凡例**
- 緑の拠点 (環境保全)
 - 緑の拠点 (景観形成)
 - 緑の拠点 (文化・レクリエーション)
 - 緑の拠点 (防災)
 - 保護樹林 (集団)
 - 大震災避難場所
 - 都市公園・港湾緑地など
 - 生産緑地
 - 学校
 - 歴史的景観を備えた地域
 - まとまりのある農地
 - 低層住宅地
 - ◆ チューリップ花壇
 - 緑の軸 (水辺)
 - 地域の緑の軸 (水辺)
 - 緑の軸 (沿線)
 - 地域の緑の軸 (沿線)
 - ニっ子リンリン・ロード
 - 住居系用途地域
 - 商業系用途地域
 - 工業系用途地域

守り育てる まとまりのある農地の保全と活用に努める

活かす 寺町・城内地域では伝統的な建築物と緑との調和を図りながら、歴史的な景観を形成し、歴史資源を活かしたまちづくりに取り組む



活かす 中央公園や宮内公園を実践型の緑化普及啓発・人材育成の拠点として活用する

活かす 中央公園で花と緑の情報やまちの魅力などを発信する

守り育てる 尼崎城址公園の早期整備に努める

守り育てる 小田南公園の防災機能の強化に努める

活かす 記念公園は市民の健康増進を図るレクリエーションの拠点として活用する

工夫してつくる 尼崎池田線などの幹線道路や阪神本線などの鉄道沿線での街路樹の整備や、周辺の民有地の沿道緑化などにより、景観に配慮した緑量を感じられる緑づくりを進める

3 臨海地域

(1) 概況

①地域の概況

- ・概ね国道43号以南にあたる本地域は、明治の後半から重化学工業の工場の立地が進み、阪神工業地帯の一翼を担う工業地帯が形成され、現在は、大半が工業専用地域となっています。阪神高速5号湾岸線や港湾（尼崎西宮芦屋港）にも近く、利便性がよいことから、近年では運輸・流通施設の立地もみられます。

②緑の特徴

- ・本地域の緑の割合は28.0%と、全市域の割合（23.0%）を上回っていますが、裸地の割合が最も高く、樹木緑被率は6.1%と、全市域の割合（8.4%）を下回っています（P88表4-1）。
- ・河川や運河、海などの多くの水辺空間を有しています（P88表4-1）。
- ・尼崎の森中央緑地や元浜緑地などの都市公園（約33.4ha）の他、港湾緑地や運河沿いに多くの緑が整備されています。
- ・国道43号沿いの一部に、環境防災緑地^{*7}が形成されています。
- ・大規模な製造業や倉庫・流通業などが多く立地していますが、法令等により、敷地や建築物の緑化が進んでいます。

③市民・事業者の主な取り組み

- ・平成14年（2002年）に兵庫県が「尼崎21世紀の森構想」を策定し、“森と水と人が共生する環境創造のまち”をテーマに、市民・企業・各種団体・行政などの参画と協働によるまちづくり、森づくり、産業おこし、情報発信などの各種事業が展開されています。（P85事例②）
- ・尼崎の森中央緑地では、苗木の育成や植樹など、市民・事業者との協働による緑の創出に取り組んでいます。（P106事例①）
- ・「21世紀の尼崎運河再生プロジェクト」により、運河を活かしたまちづくりに取り組んでいます。（P106事例②）
- ・尼崎鉄工団地では、工場敷地内の空きスペース等を活用して、多様な手法により緑化空間を創り出す「すき間緑化」を、市民と協働で進めています。（P76事例②）
- ・道路沿いの工場の塀を撤去し、緑化空間として利用する沿道緑化に取り組んでいる事業所があります。また、臨海西部の工業地では、地区計画により、沿道の緑づくりが進んでいます。（P74事例②）

地域の特性を活かした取り組み事例

■事例① あましん緑のプロジェクト

- ・ 尼崎信用金庫では、地元企業として環境保全活動に積極的に取り組むため「尼崎 21 世紀の森づくり」に参画し、公募の市民とともに、従業員とその家族が植樹祭を開催したり、除草作業などを行っています。また、尼崎市内の各店舗に「苗木の里親コーナー」を設置し、苗木作りへの参加を呼びかけています。



除草作業の様子（尼崎の森中央緑地）

■事例② 21 世紀の尼崎運河再生プロジェクト

- ・ 尼崎の運河には、世界的にも高い水準のモノづくり産業が集積しており、この特色を活かし、尼崎臨海地域の貴重な財産である運河や河川を核に、自然と人と産業との良好な共生関係による持続的発展が可能な“21 世紀の環境先進都市”の創造をめざすことを目標に、運河を核とした魅力ある地域づくりへの取り組みを進めています。



水質浄化の取り組みの様子（北堀運河）

（2）緑のまちづくりの考え方

目指すまちの緑のイメージ『人の交流を生み、産業と共生する環境創造の緑』

本地域は、大半が工業系の用途として利用され、市民にとっては緑と潤いが少ない印象を受ける地域です。

しかし、尼崎 21 世紀の森構想の先導整備地区をはじめとするまとまりのある緑の整備や、運河を活かしたまちづくり、個々の工場での緑化の取り組みなどにより、その印象が変化しつつあります。

また、個々の敷地規模が比較的大きく、未利用地などが残される臨海地域では、取り組み次第で、まちの印象を大きく変える可能性があります。

そこで、臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するために、尼崎 21 世紀の森構想の実現や運河を活かした緑のまちづくり、事業者と市民の協働による工場の緑化等により、人の交流を生み、産業と共生する環境創造の緑を目指します。

①緑のネットワーク

ア 地域の緑の拠点

環境保全の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎 21 世紀の森構想の先導整備地区 ・ 元浜緑地 ・ まとまりのある緑（港湾緑地、東部浄化センター屋上緑地など）
景観形成の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴的な工場地域の景観（運河、事業所）
文化・レクリエーションの拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化普及啓発の場となる緑（元浜緑地・祇園橋緑地） ・ 運動等レクリエーションの場となる緑（魚つり公園、尼崎の森中央緑地、武庫川河川敷緑地、西向島公園など）
防災の拠点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災拠点（尼崎の森中央緑地） ・ 避難地となる緑（大火災避難場所）

イ 地域の緑の軸

水辺の軸
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川（武庫川、左門殿川、蓬川など） ・ 運河
沿線の軸
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幹線道路など（国道 43 号、臨海幹線、臨港線など）

ウ 地域の身近な緑

- ・ 事業所、工場などの緑
- ・ 学校園、下水処理場等の施設の緑
- ・ 自転車道（尼っ子リンリン・ロード^{*1}）沿道の緑
- ・ 身近な都市公園
- ・ . . . など



元浜緑地もみじ池

②緑のまちづくりの取り組み

関わる

基本方針1 多様な主体が関わり、みんなで緑のまちづくりを進めましょう

- 緑化普及啓発の拠点である元浜緑地や祇園橋緑地では、実践型の普及啓発・人材育成に取り組み、緑に関わる人を増やすとともに、その集客力を活かして、運河再生の取り組みなどとも連携しながら緑のまちづくりの取り組みを進めます。

活かす

基本方針2 暮らしや様々な活動、まちづくりに緑を活かしましょう

- 尼崎 21 世紀の森構想に基づき、水と緑豊かな自然環境の創出を進めるとともに、協働による緑のまちづくりの取り組みを進めます。
- 21 世紀の尼崎運河再生プロジェクトにより、運河や河川を活用した、魅力あるまちづくりの取り組みを進めます。
- 尼崎の森中央緑地、元浜緑地、運河をはじめとする地域の緑を、環境教育・学習の場として活用します。
- 尼崎の森中央緑地は、市民の健康増進を図るレクリエーションの拠点として活用します。
- 祇園橋緑地を再整備するなど、他の地域から臨海地域へのアクセスのしやすさを高めます。
- 事業者と市民との協働による工場の緑化や、北堀運河のさらなる活用などにより、人の賑わいを創出し、南北の地域間の交流を促進します。

守り
育てる

基本方針3 まちの緑を守り育て、次世代へ引き継ぎましょう

- 尼崎 21 世紀の森構想や港湾計画などに基づく尼崎の森中央緑地の整備をはじめ、運河沿いや事業所内の緑づくりなど、地域全体の緑のネットワークの充実により、生態系を保全・回復します。
- 尼崎の森中央緑地において、地域固有種による緑の創出の取り組みを進めるとともに、市全域に取り組みを広げる方策について検討します。(P83 重点的な取り組み3)

工夫して
つくる

基本方針4 工夫して新たな緑づくりを進めましょう

- 県民まちなみ緑化事業などの制度の活用や、条例の規制・誘導などにより、事業所の沿道緑化や壁面緑化、屋上緑化などを進めます。また、道路からの景観だけでなく、臨海地域ならではの運河や阪神高速湾岸線からの景観にも配慮します。
- 引き続き、国道 43 号沿線の用地の買い取りによる環境防災緑地の整備を進めるとともに、地域による開放型の利用についても検討します。
- 工場のすき間や未利用地などを積極的に活用し、身近な緑づくりを進めます。

臨海地域

目指すまちの緑のイメージ 『人の交流を生み、産業と共生する環境創造の緑』

